

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	開発事業における文化財所在の事前確認を周知徹底する	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	埋蔵文化財について遺漏の無いよう保護をしていく。外部との打合せ記録簿を作成し、情報共有の徹底を図る。新たな指定物件や要保護物件の検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	窓口対応の徹底を図るとともに、情報について、共有を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図(対象をどうするのか)	現状保存を目指す。不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市指定文化財29点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。埋蔵文化財確認のあった47件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する5件及び27年度に確認調査を行った一本松遺跡の本調査を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	発掘調査件数	9	8	6	件	業務取得
	ii	発掘調査面積	1,861	1,444	6,286	m ²	業務取得
	iii	埋蔵文化財窓口確認数	730	827	741	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	4,950	11,630	金額(千円)	内容	6,658		
国支出金(千円)	1,400	5,184	300	市指定文化財管理費報償	1,500		
県支出金(千円)	350	1,036	7,147	非常勤職員賃金	300		
市債その他(千円)			2,171	使用料及び賃借料			
一般財源(千円)	3,200	5,410			4,858		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	文化財を未来に伝えていくための保護業務を引き続き行う。埋蔵文化財保護は開発に伴うもので不確実である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	文化財保護は行政の責務であり、首都圏近郊に位置する本市にも、各種開発の波が市内にも及んでいることから、今後も継続して実施する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
平成29年度への繰越額(単位:千円)						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	芸術・文化活動への参加機会の周知を図る。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	芸術文化活動への参加機会の更なる周知を図るとともに、ワークショップの開催や、参加条件の緩和などで、参加者の裾野を広げる。
②①に基づく取組み結果	芸術鑑賞の機会として、芸術鑑賞教室の実施、また市民の日頃の芸術文化活動の成果を発表する機会として、市民文化祭や市美術展覧会を実施するにあたり、市民の参加募集を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図(対象をどうするのか)	芸術文化に関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業(市民文化祭、市民美術展覧会、芸術鑑賞教室等)の実施。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	芸術・文化活動団体構成員や参加者の固定化から高齢化がすすみ、活動が停滞したり、取りやめる団体も出ていることから、参加条件の緩和やワークショップの実施により、若い参加者の取り込みや、新たな人材の取り組みが必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市民文化祭の実施及び市展の共催、芸術鑑賞教室(能楽・歌舞伎・文楽・美術)を実施して、広く市民の芸術文化活動及び鑑賞の参加機会となり、芸術文化活動のきっかけを提供することができた。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 鑑賞教室応募者数	425	380	357	人 業務取得
	ii 市主催芸術文化事業参加・発表者数	1,836	1,866	1,725	人 業務取得
iii 市主催芸術文化事業来場者数	10,619	10,137	10,825	人 業務取得	
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	1,694	1,674	金額(千円)	内容	1,728
国支出金(千円)			1,036	非常勤職員賃金	
県支出金(千円)			26	芸術鑑賞教室	
市債その他(千円)			300	市民文化祭負担	
一般財源(千円)	1,694	1,674	315	市展負担金・芸術文化団体補助金	1,728

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	芸術鑑賞への関心が高まっており、市民の多様な芸術趣向に応え、更に多くの市民が参加できる機会や、来場のきっかけを作っていくことが課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	芸術文化の発表機会、鑑賞機会の提供は地域の芸術・文化意識の向上に必要であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	周知普及事業等の実施により市民周知度を上げる。史跡の整備事業を進める。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、史跡の適正な保存を図るため、清掃管理を行う。
②①に基づく取組み結果	周知イベントを行い、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡整備基本設計を作成した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡 捕込・野馬土手	意図(対象をどうするのか)	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び清掃。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および保存管理を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	清掃委託業務及び職員による作業によって、捕込の維持管理を行った。また、周知普及イベントを10件行い、史跡の重要性について伝えるとともに、広く史跡の存在についてPRした。整備実施計画に基づき整備基本設計を作成した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠	
	i 国史跡取得面積	6,000	6,332	6,332	m ² 業務取得	
	ii 周知普及事業参加者	7,838	4,441	3,938	人 業務取得	
iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	2,691	40,761	金額(千円)	内容	2,500	
	国支出金(千円)	29,627	47	検討委員会報償		
	県支出金(千円)	2,432	1,654	清掃管理委託		
	市債その他(千円)		36,486	公有財産購入費		
	一般財源(千円)	2,691	8,702	2,000	実行委員会負担	2,500

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	史跡を保護活用・整備し、市民への更なる周知の裾野を広げることを目指して、事業展開していくことが必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	史跡を保護活用し、周知普及事業の実施や清掃管理を行うことは、芸術・文化の振興を図るとともに、史跡に対する市民意識の醸成を図ることが必要となるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	周知普及・整備基本設計作成	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	清掃管理業務、普及活用イベントの実施、整備基本設計完成	41,165	44,833	当初	41,165	44,822	H27からの繰越	4,061
				H27⇒28繰越	4,061			
③達成状況	完了			補正			現年分	40,761
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-393			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野 晃			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民ボランティアを活用しながらの展示や教育・普及を引き続き行う。簡易修繕を利用した環境整備を行う。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	市史編さん事業から引き継いだ資料整理を行うとともに、新規の資料館ボランティアの養成を開始する。
②①に基づく取り組み結果	市民ボランティアによる常設展示のガイドや教育・普及の補助を行った。修繕では勝手口ドアの修繕等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿りその生活等を知ること、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市の歴史・民俗などに関する資料を調査・収集・保管・研究をするとともに、展示事業や教育普及事業を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用者数の推移では、20年前の平成8年度は4,793人であったが、平成28年度は8,393人と約1.75倍に増加し、市民の歴史や文化財に対する興味・関心が深まっている。一方、この間に、約11,400点の歴史・民俗資料と345箱の歴史的公文書を受け入れるなどして、収蔵スペースが限界に近づいている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	(1)郷土資料の収集 (2)常設展示 (3)企画展示 (4)講座・教室 (5)講師派遣					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 来館者数	5,524	7,690	6,323	人	業務取得
	ii 展示事業実施回数	3	3	3	回	業務取得
	iii 教育・普及事業実施回数	69	62	66	回	業務所得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	10,176	7,320	金額(千円)	内容	14,052	
	国支出金(千円)		55	市史編さん審議会委員報酬		
	県支出金(千円)		7,266	施設管理運営費		
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	10,176	7,320		14,052	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現用の施設を活用し、かつ、資料館ボランティアの協力なども得てできるだけ合理的に事業を行っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	資料の調査・収集・保管・研究及び展示事業、教育・普及事業とも可能な範囲で行った。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	鎌ケ谷市史編さん事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野 晃			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「市史刊行計画」に基づいた事業実施する。『鎌ケ谷市史』下巻、『鎌ケ谷市史研究』第30号および『鎌ケ谷のあゆみ(4訂版)』を刊行する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	なし。
②①に基づく取り組み結果	「市史刊行計画」に基づいた28年度事業は、停滞なく完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿りその生活等を知ること、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	「鎌ケ谷市史刊行計画」に基づき、郷土の歴史、民俗等に係る資料を収集・調査し、鎌ケ谷市史の執筆・刊行を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内に残されている歴史・民俗などの資料を収集・保存し、展示することを目的とした郷土資料館が昭和62年に開館。生涯学習・学校教育において歴史の関心が高まる中、収集した資料の利用が十分に行われていない。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	『鎌ケ谷市史』下巻、『鎌ケ谷市史研究』第30号および『鎌ケ谷のあゆみ(4訂版)』を刊行して、市史編さん事業が計画どおり完了した。						
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠	
	i	生涯学習・学校教育の場での利用者	7,332	10,057	8,393	人	業務取得
	ii	刊行物点数	1	1	3	点	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	8,632	13,224	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			5,132	印刷製本費			
県支出金(千円)			8,093	市史編さん委託			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	8,632	13,224			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、市史編さんが再開される機会に備えて、資料収集や、そうした資料の基礎的な整理作業を継続的に進めることが必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	「市史刊行計画」に基づいた事業を行うことができた。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	『市史』下巻、『市史研究』30、『鎌ケ谷のあゆみ(改訂版)』の刊行	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	『市史』下巻:750冊、『市史研究』650冊、『あゆみ』500部	13,300	13,300	当初	13,300	13,224	H27からの繰越	0
				H26⇒27繰越				
③達成状況	完了			補正			現年分	13,224
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ヶ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	平成28年度に実施した避難訓練で出た反省点・意見を踏まえ、平成29年度も来場者の安全を図るために、避難訓練を実施する。
②①に基づく取組み結果	危機管理マニュアルを元に、市民会館内施設職員で避難訓練を実施した。その他、警備員立会いでの避難訓練も実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要		市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)		各施設の来場者数が増加している。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果		きらりホール・多文化共生推進センターの入場者数は減少したが、他施設は増加傾向である。					
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	きらりホール	74,932	58,438	57,047	人	業務取得
	ii	中央公民館	66,674	95,029	98,295	人	業務取得
	iii	多文化共生推進センター	3,402	3,435	2,827	人	業務取得
	iv	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター	3,546	4,847	5,010	人	業務取得
③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)		114,643	114,290	金額(千円)	内容	114,853	
国支出金(千円)				10,949	光熱水費		
県支出金(千円)				12,733	清掃管理委託		
市債その他(千円)				80,987	市民会館賃借料		
一般財源(千円)		114,643	114,290			114,853	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制の強化					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設を管理運営するにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。また、複合施設という観点から利用者にとって利便性がある反面、市民会館を中心に情報共有を常に行う必要性もあることから、効率性は普通とした。さらに、課題に対して、各センターから避難訓練に対して様々な意見が出たため、改善とする。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越
		H25→26繰越		
③達成状況		補正		現年分
		流用・充当		
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	利用案内書の見直しを行うなど、利用者にとってわかりやすいホール運営を検討。入場者数が少なかった自主事業の公演の見直しを行い、PR方法等再度検討する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	きらりホールの貸館利用促進と主催事業での来場者数の増加を図る。
②①に基づく取組み結果	利用案内書を改訂し、また、きらりホール運営委員からPR方法についてアドバイスをもらい、主催事業来場者数の増加を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	きらりホール来場者数は減少してしましたが、主催事業の来場者数が5,614人から5,854人と増加している。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	74,932	58,438	57,047	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	52,531	47,825	金額(千円)	内容	48,220		
国支出金(千円)			8,335	報償費			
県支出金(千円)			3,219	手数料			
市債その他(千円)			28,366	舞台保守管理委			
一般財源(千円)	52,531	47,825			48,220		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	きらりホールの貸館利用促進と主催事業での来場者数の増加を図る。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「人づくり、地域づくり、まちづくり」の観点から考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性、効率性は高いといえる、また、課題に対しての改善が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越	
		H25⇒26繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)				